

項目	内容
名称	イミダゾールジペプチド [英]Imidazole dipeptide [学名]-
概要	イミダゾールジペプチドは、イミダゾール基を有するジペプチドの総称で、カルノシン、アンセリン、バレニン、ホモカルノシン等が該当する。動物の脳、心臓、皮膚、肝臓、腎臓、骨格筋に含まれるが、その働きやメカニズムは十分に解明されていない。健康食品の原材料は純粋なイミダゾールペプチドではなく、それらのジペプチドが濃縮された鶏肉抽出物であることが多い。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <p>「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」にも該当しない。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<p>・ マウスではイミダゾールジペプチドの経口投与により、血液中のカルノシンやアンセリンの濃度が増加する (2002188139) (2003078520)。一方、ヒトでは、イミダゾールジペプチドを摂取しても血液中にカルノシンやアンセリンとしては検出されず、それらの構成成分のみが検出されている (2004154226) (2008181003) (2008181002)。</p>
分析法	-
有効性	
ヒ 循環器・ ト 呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。

での評価	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	(101) 機能性ペプチドの最新応用技術 CMC出版 有原圭三 監修 (2004154226) 体育学研究 . 2004;49(2):159-169. (2008181003) 薬理と治療 . 2008;36(3):225-235. (2008181002) 薬理と治療 . 2008;36(3):213-224. (2002188139) 日本栄養・食糧学会誌. 2002;55(2):73-78. (2003078520) 日本栄養・食糧学会誌. 2002;55(4):209-214.	